

4 地域本部(学習センター)

実施報告書(兼)事業評価

【様式4】		<令和4年度 地域学校協働本部事業>						
センター実施報告書(兼)事業評価				中央学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	福島第一小学校・福島第二小学校・福島第三小学校・福島第四小学校・福島第二中学校・福島第四中学校							
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)		ボランティア氏名	成果・課題等		
	1	福島第一小学校	6/9・13・7/6 6/23・6/30	2年生 20人 生活科(野菜の栽培) 5年生 12人 家庭科(調理実習)	長島信日出 浅野良子	・野菜栽培の作業を児童や難易度に合わせて行った。 ・安全な調理を心掛け、児童と寄り添いながら活動した。		
	2	福島第二小学校	12/8 5~3月(定期的) 全校生(205人)	5年生 22人 家庭科(ミシン操作) 朝の読み聞かせ	浅野良子 高橋里佳 他	・ひとり一人に適切に指導してもらい、大変助かった。 ・子どもたちの本への関心を高めることができた。		
	3	福島第四小学校	8/30・11/30 9/6・12/9	3年生 19人 総合的な学習の時間(名人ってどんな人・囲碁体験等) 3年生 19人 総合的な学習の時間(名人ってどんな人・三味線体験等)	宮腰紹子 宮腰典明 浅野良子	・囲碁や三味線体験から、それぞれの楽しさを体感しながら、体験談を聞くことで練習することやあきらめない気持ちを持つことの大切さを学んだ。		
	4	福島第四中学校	2/9・16・3/2・9・16・23・30	全学年 環境整備(保健衛生・アルコール補充など)・図書室整備、図書修繕など・教科指導(保健体育)の指導補助	阿部奈々花(四中卒・大学4年生)	・教職を希望し、社会人として現場に出る前に様々な経験を積みながら、学校の要望に大いに応えることができた。		
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)		連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート		
	1	福島一小・二小・三小・四小・清明小・福大附属小・聖母小・ふくしま中央認定こども園・福大附属幼・聖母幼	11/3~6 小学校全学年・こども園児・幼稚園児 全作品数(共同作品含む)137点 全参加者数 258人 中央地区文化祭における児童・園児の作品展示(絵画・書写・共同作品) ※中央学習センター主催事業			有 無		
2	福島第三小学校	福島三小サポーターズクラブの支援(保護者) ※学校独自の支援協力組織・活動 ・2年生 生活科 学校周辺町探検における児童の安全確保・引率補助 ・3年生 総合的な学習の時間 信夫山散策(駒山公園など)における児童の安全確保・引率補助 ・6年生 総合的な学習の時間 地域学習(花見山・土湯温泉・福島城跡・飯坂温泉・堀切亭など)における児童の安全確保・引率補助 ・全学年 音楽祭(音楽堂) 受付・案内など			有 無			
地域学校協働本部(学習センター)事業評価								
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。				✓		
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。			✓			
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。					✓	
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○学校からの支援要望に応じた学校支援ボランティアを派遣することができた。授業や活動の目的に合った支援をすることができ子どもたちは支援ボランティアから学ぶものも多くあり、学校からの要望に大いに応えることができた。</p> <p>○中央地区文化祭における児童等の作品展示は、依頼した学校全てから作品提供があり、地域住民が各学校の日頃の学習活動、児童の活動を知る良い機会となり、来館者からも好評であった。今後も継続していきたい。</p> <p>●学校支援ボランティアを活用していない学校においても、学校独自に地域の人材・団体・企業等を活用しながら、教育活動に支援を受けている場合が多い。学習センターが直接コーディネートしていないものについても、地域と学校とのつながりを考えた場合本事業の目的に合うものであり、本事業の一つとしてとらえても良いのではないかと考える。</p> <p>※主催事業の文化祭時に小学生等の作品展示をするばかりでなく、定期的に小中学生の様々な活動で作られた作品などを掲示することで、学校や児童・生徒の新たな発表の場を作るとともに、多くの人に地域の学校の様子を知ってもらえる機会を設けていきたい。</p> <p>※本事業を活用しなかった学校において、学校独自にボランティアや地域人材・団体・企業等を活用した場合の事例も、実施報告書等に掲載することで、学校と地域の結びつきを知ってもらえる手立てとしてはどうか。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

【様式4】		<令和 4 年度 地域学校協働本部事業>						
センター実施報告書(兼)事業評価				三河台学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	三河台小学校 岳陽中学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	三河台小	9/14 9/28 2年1組・23名 2年2組・23名 2年3組・23名 校外学習の補助	柏倉かつ彖 他 交通安全母の会 8名	生活科の校外学習(町探検)において、子どもたちが安全に活動できるよう、グループごとに付き添い見守りいただいた。			
			11/4 11/11 11/25 1/12 2/2 4・5・6学年囲碁クラブ児童 16名 囲碁のルールや碁石の動かし方について	野田町碁友会 鈴木輝夫 倉田修一 梅津 久	4・5・6年児童に対して、丁寧に囲碁の基本を教えていただいた。児童も興味を持って取り組んだ。児童は囲碁に興味をもって取り組んだ。			
			1/27 4年生58名 百人一首かるたの指導	大寺智子 藤田美智子	4年生に、百人一首についての基礎について教えていただいた。児童は楽しくかるた取りに取り組んだ。			
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
地域学校協働活動	1		実施せず		有・無			
	2				有・無			
	3				有・無			
地域学校協働本部(学習センター)事業評価								
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。				✓		
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネーターができたか。				✓		
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネーターができたか。				✓		
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○専門性に基いた指導を受けることができ、大変参考になった。また、地域の皆さんとの交流を通して、地域に対する所属感を高めることができた。</p> <p>○コロナ禍の中ではあったが、比較的感染状況が落ち着いている時期に、ボランティアの活用を推進できたが、昨年度より実施する機会が減った。</p> <p>○支援推進員に運営審議会の委員の方々に委嘱し、支援ボランティア候補者リストを幅広く求めた。</p> <p>●今年度もコロナ禍であり、生徒の諸活動の制限や学校行事の中止・延期、内容の大幅な変更などがあり、学校内の諸活動の調整等が難しい中、推進を図ることが困難な状況もあった。</p> <p>●小学校から要望のあった「戦争体験の話」など、高齢者の方の益々の高齢化でコーディネーターが厳しくなっている。</p> <p>●中学校から要望のあった部活動支援は、昨年までの指導者が辞退したことにより、代わりの方を探したものの見つからず、要望に応えられなかった。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞						
センター実施報告書(兼)事業評価			渡利学習センター					
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	渡利小学校、南向台小学校、立子山小学校、渡利中学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	渡利小	7/8 学級懇談会での預り児童支援 全学年12名	学習センターボランティア5名	懇談会時の待機児童の宿題や自主学習、読書など、ボランティアの皆さんの分かる範囲で支援していただいた。			
			12/5 「昔遊び」(生活科) 1年生 68名	学習センターボランティア9名	昔遊びを通して、ボランティアの方が昔遊びの先生として、1年生と楽しく触れ合うことができた。			
			12/8 音楽科「琴の演奏を聞こう」「琴を演奏してみよう」 5年生69名 6年生58名	等曲田流宮城社 大師範 蕃建生子先生	地元渡利地区にお住いの琴の先生の理解と協力をいただき、琴の演奏を生で聞くことができた。また、琴の歴史について分かりやすく説明していただいたので、児童の理解が深まった。			
			2/28 学級懇談会での預り児童支援 全学年9名	学習センターボランティア3名	懇談会時の待機児童の宿題や自主学習、読書など、ボランティアの皆さんの分かる範囲で支援していただいた。			
	2	南向台小	年間を通して、指導を要する児童への学習支援	学習ボランティア 鈴木智子	年間を通して、個別の支援を要する児童への学習支援を継続していただいたことで、児童の理解が深まった。			
3	立子山小	年間を通して、2回「読み聞かせ」 全学年13名	学習ボランティア 中川洋子 他	毎月の読み聞かせは、子どもたちにとって大変有意義で、本に対する興味関心を高めることにつながった。				
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
地域学校協働活動	1	渡利小	10/13 「学習センター訪問」(生活科) 2年生 72名 学習センター機能や利用方法の説明	渡利学習センター	有	図書室や各部屋の説明を聞いて、学習センターの働きについて理解をすることができた。		
	2	渡利小 南向台小 立子山小 渡利中	10/15~10/16 渡利地区各小・中学校全児童生徒作品展65点 渡利地区文化祭における児童生徒の絵画・書写作品の展示		有	地域住民が児童生徒の活動の様子や学習成果をみるよい機会となり、住民からも好評であった。		
	3				有・無			
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。				✓		
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネーターができたか。				✓		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネーターができたか。				✓		
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
	6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○例年行っている小学校での学校支援については、登録している学校支援ボランティアの方々の協力を得てスムーズに行うことができた。協力いただいたボランティアの方々は、当館を利用している団体の方々が多く、実施にあたり理解と協力を得やすく、大変ありがたい。</p> <p>○コロナ禍にあっても、感染防止の観点から、学校の担当教諭やボランティアとの打合せは行わず、できるだけ電話や文書により行ったが、支援内容について、お互いに確認しながら進めることができた。</p> <p>○今年度、南向台小において、渡利地区在住の元教員による学習支援ボランティアの協力を得ることができた。教職員の少ない小規模校にとって、大変ありがたく有効であったと推察する。</p> <p>●毎年のごとだが、小規模の小学校はもともと地域との関わりが強く、学習センターを通さず地域とつながっているため、学習センターの支援を必要としないことも多い。(南向台小、立子山小)</p> <p>●ボランティアの方々の高齢化が進み、新しい人材の発掘が急務である。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

【様式4】		<令和 4年度 地域学校協働本部事業>						
		センター実施報告書(兼)事業評価			杉妻 学習センター			
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	清明小学校 杉妻小学校 福島第一中学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	清明小	通年・登校時の交通指導、校舎周辺の除草、樹木の剪定など。	佐藤 鐵夫	実施			
			月1回の水曜日・一斉下校の見回り、安全確保。	各町内会当番制	実施			
			水防に視点を置いたフィールドワークを実施し、いざという時の判断や行動力の素地をつくる。	各町内会の代表者	実施			
	2	杉妻小	12月中旬・学習センターにおいて1年生を対象に、ケン玉やコマ回し等の「昔遊び」を、地区の高齢者が中心となって伝授する体験学習。	杉妻地区の高齢者	中止			
1月中旬・地元の伝統行事「だんごさし」を、2学年児童に伝授。団子は材料から練って作り上げ、ミズキの木に刺す体験をする。			利用団体有志の方	中止				
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等		
地域学校協働活動	1	福一中	11月1日 生徒430名、保護者33名、教職員40名 教育講演会「プロサッカー選手という選択」 ～あなたの夢はなんですか?～ 講師：福島ユナイテッドFC所属 山本 海人 選手	福島ユナイテッドFC	①無	元日本代表で現役選手の講話には、大変興味・関心が高まった。		
	2				有・無			
	3				有・無			
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				○		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。				○		
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。				○		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。				○		
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				○		
	6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				○		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○ 活動の中止、実施にかかわらず、連絡調整は滞りなく図れた。</p> <p>● 各学校のニーズに応える企画や人材確保に向けて、コロナ禍でもサポートできるよう模索していかなければならない。</p>							

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞						
		センター実施報告書(兼)事業評価			蓬萊学習センター			
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	蓬萊小学校・蓬萊東小学校・蓬萊中学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	蓬萊小	【学校独自/継続実施】 5/9,20,6/1,7/14,10/14 2年生14名。さつまいもの苗植え 10/14 さつまいもの収穫	蓬萊なごみ会	生活科の学習の一環である野菜栽培活動に、専門的な知識を有するなごみ会の方のご協力をいただいたおかげで、苗植えや収穫を体験することができた。			
			【学校独自/継続実施】 5月～3月の毎週水曜日と毎週金曜日を隔週で 1年生33名、2年生16名。本の読み聞かせ	蓬萊小おはなしの会	毎回違う本を読んでいたことで、たくさんの本に親しむことができた。			
			9/21,22,29 5年生35名 家庭科ミシン学習補助 10/11,18,25 6年生55名 同上	蓬萊レディーズ会員	ミシンを使った裁縫の学習で、きめ細かく支援をしていただいたおかげでミシンを上手に使うことができた。			
			【学校独自】 11/9 3年生34名 本の読み聞かせ	蓬萊小おはなしの会	国語の学習の発展として関連図書の読み聞かせをしていただいた。学習の幅が広がった。			
	2	蓬萊東小	【学校独自】 6/29 1年33名 昔遊び	蓬萊なごみ会	昔遊びを教えていただき、昔遊びに親しむことができた。			
			9～3月毎週月・火・木曜日 特別支援学級(あぶくま・かしのき)13名 交流学習への付き添いなど	あぶかし学習ボランティア	一人一人が安心して交流学習を行うことができた。			
			11/15,22 5年生28名 家庭科 ミシン実習・小物づくり学習の補助	蓬萊レディーズ会員	一人一人がミシンの正しい使い方を知り、安全に操作することができた。			
			11/16,24 6年生28名 家庭科 ミシン実習・小物づくり学習の補助	蓬萊レディーズ会員	一人一人の縫う技能を高めながら活動を進めることができた。			
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等		
地域学校協働活動	1	蓬萊小	9/1 6年生55名。福島大学今西先生と蓬萊町について考えた。	福島大学行政政策学類 今西一男先生	無	住みよい蓬萊町について一人一人がテーマをもって調べたり考えたりすることができた。		
			11/12 PTAとなごみ会45名。学校南側歩道の落ち葉拾い	蓬萊なごみ会	無	積もっていた落ち葉をきれいに取り除くことができた。		
			12/3 三校PTA親子ボランティア清掃。中央公園のごみ拾い	蓬萊支所	無	中央公園のごみを拾ってきれいにすることができた。		
	2	蓬萊東小	6/10 2年36名 生活科9:25-11:15 安全確認のため、保護者ボランティアを募り、町探検(交番、学習センター、いちい、ダイユエイト)実施	蓬萊交番、蓬萊学習センター、いちい、ダイユエイト	無	保護者や地域の施設、商店等の協力を得て、地域のさまざまな場所を訪問見学することで、効果的な町探検を行うことができた。		
			11/17 2年36名 生活科9:25-11:15 安全確認のため、保護者ボランティアを募り、町探検(郵便局、音楽教室、コンビニエンスストア)実施	蓬萊郵便局、カワイ音楽教室、ファミリーマート	無			
	3	蓬萊中	11/8 中央公園落ち葉拾いボランティア活動	蓬萊支所	無			
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。					✓	
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。					✓	
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。						✓
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓			
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○ 学習センターの事業参加者からなる組織を活用したり、既存の組織の活動内容や範囲を拡大したりして、学校からの支援要請の一部に応えることができた。</p> <p>● 2か月にわたり毎週ボランティアに入っていたことで、ご協力いただく皆様にとっても大きな負担をかけてしまった。 ※支援活動の前に、学校とボランティアが入念な打ち合わせを行うことができるようコーディネートしていく必要がある。</p> <p>● 学校と地域の連携協働を深めることができなかった。 ※地区たよりを活用して、7月号と1月号で広報活動を行った。今後も継続して広報に努めていきたい。</p> <p>● あわせて、各学校の「社会に開かれた教育課程」の編成にもまったく寄与できなかった。 ※常にアンテナを高めて学校や地域の情報を集め、互いのニーズを充足する交流が生まれるような配慮をしていきたい。</p> <p>● 指導員の力不足から支援者を見つけることができず、中学校の複数の要望にはまったく応えられなかった。 ※登録ボランティアの守備範囲以外の内容や高齢化などを補うために、引き続き新規登録者の発掘に努めていきたい。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

【様式4】		<令和 4 年度 地域学校協働本部事業>						
センター実施報告書(兼)事業評価				清水学習センター				
業の目	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	森合小学校 清水小学校 北沢又小学校 御山小学校 清水中学校							
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
	1	御山小	「地域の名人に学ぶ会」9/28 全学年縦割りで実施 20口座開設 内容(茶道・グランドゴルフ・テニス・卓球・・・)	50～60				
	2	森合小	※学校独自の取組 「地域学習クラブ」年間10回開催(水曜日午後) 小学3年生以上 内容(お茶・花・将棋・フルート 大正琴・テニス・卓球・バレーボール・料理・体操)	20数名				
	3	北沢又小	※学校独自の取組 生け花 6年生 ジャムづくり 4年生 お話し(全学年 毎週 朝・昼休み等)	お話しは多数の方々				
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
	1	御山小	10/27 2年62名生 生活科まち探検	清水学習センター	有 [○] 無	身近な公共施設について理解できた。		
	2	清水小	※学校独自の取組 「森林学習」4年生「木工クラブ」4年生「栽培」たんぼの学習5年生「サツマイモ栽培」特別支援学級	地域の方々	有 [○] 無			
	3				有・無			
地域学校協働本部(学習センター)事業評価								
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。					レ	
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。					レ	
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネーターができたか。					レ	
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネーターができたか。					レ	
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。					レ	
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。					レ	
○成果	○清水地区の小中学校は学校独自のボランティアが多数確保されており、本事業を活用しないで学校行事等実施されていたことがわかった。校長面談の結果、次年度に向けてボランティア登録や人材活用に向けて動きたいとのことであった。							
●課題	●新型コロナウイルスまん延中であったため、各学校教育課程編成の折より地域の人材活用を控える動きがあった。							
※改善策等	●新型コロナウイルスまん延中であったため、各学校教育課程編成の折より地域の人材活用を控える動きがあった。							

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞					
センター実施報告書(兼)事業評価			もちずり学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。						
対象校	岡山小 月輪小 福島三中 ふくしま支援学校						
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等		
学校支援活動	1	岡山小	持久走記録会(走路誘導・安全確保) 11/16 3,4年生146名 11/17 5,6年生133名	ふくこぶしもちずり8名	安全誘導だけでなく応援もしていただいた。他学区からの協力もあった。		
	2	ふくしま支援学校	学校付近の美化活動(6/15 高等部2年生18名)	ふくこぶしもちずり5名	班に1人ずつボランティアが入り、交流を回りながら活動できた。		
			フラワーアレンジメント (11/16 高等部3年生18名・フラワーアレンジメント制作指導)	川野 さよ 館長	事前にしつかり打ち合わせをして活動にあたることができた。		
			書写(12/9 高等部3年生1クラス・書初め指導)	三河台書道クラブ2名	地区外からのボランティアで、一人一人に丁寧に指導していただいた。		
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等	
地域学校協働活動	1	岡山小 月輪小	農園活動・年中行事 (R4.5～R5.2 年長～4年生38名・野菜栽培活動、季節の行事活動補助等)	ふくこぶしもちずり・育成会・女団連	有/無	世代間交流が十分に行われた。活動日と収穫時期を合わせるのが難しい。	
	2	岡山小	学習センター見学 (9/22 2年生3クラス・図書室を含む館内案内)	館長・図書室職員	有/無	身近な公共施設について理解することができた。	
	3	岡山小・月輪小・福島三中・岡山幼稚園・三育幼稚園・岡山学童館	もちずり地区文化祭 11/5・6 各校の絵画、工作、書写等の作品展示 中学生による受付・案内等	もちずり学習センター	有/無	園児や児童生徒の作品が喜ばれた。中学生のボランティアが大活躍だった。	
地域学校協働本部(学習センター)事業評価							
No.	項目	評価の観点		十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			✓		
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。				✓	
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。			✓		
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。			✓		
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。			✓		
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。			✓		
○成果	○ ふくしま支援学校高等部では、昨年度末の教育課程編成から活動を組み入れてくださった。話し合いからも、社会に出ていく生徒たちのために数多くの交流をさせたい、より専門的なことを学ばせたいという教員の思いが伝わってきた。実際に活動に関わる現場の教員に本事業を理解してもらうことができ良かった。						
●課題	○ ボランティアの方にも支援学校のこと、支援の必要な生徒のことを理解してもらうことができた。						
※改善策等	○ 学校独自のものとしては、月輪小・JAによる「生け花体験」・「ジャム作り」、岡山小・3年社会PTA会長による「消防団の仕事説明、JAによる6年「生け花体験」が行われた。						
	● ボランティアが入ることで時間をとられてしまったり、教師の意図とボランティアの思いが食い違ったりすることがあり、活用に至らない場合があるのではないかと。 ※ 児童生徒が教えてもらうだけでなく、教員もボランティアの方に教えてもらうような研修(昔遊びなど)があっても良いのではないかと。						
						福島市教育委員会生涯学習課	

【様式4】		<令和4年度 地域学校協働本部事業>					
センター実施報告書(兼)事業評価			北 信 学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。						
対象校	北信中 鎌田小 瀬上小 余目小 矢野目小						
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等		
	1	鎌田小	学校独自の取組 (安全教育・工コ探検隊)	交通安全母の会・交番・消防・町内会連合会			
	2	瀬上小	学校独自の取組 (リンゴ栽培・味噌づくり・福島学院大学生の読み聞かせ)	果樹園やまど内池平蔵商店 福島学院大			
	3	余目小	学校独自の取組 生活科(野菜作り・稲作・りんご)花育 まちたんけん	柘窪三男 JA			
	4	矢野目小	社会科 歴史学習 5月、6月、9月 6年2クラス	三本杉國弘	資料をたくさん準備され、子供たちの学習が深まった。		
5	北信中	1年 職業人に学ぶ会 1月25日 3人の講師を紹介した	高橋ゆうこ 味戸清晃 保育士	子供たちにとって、有意義な体験だった。			
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等	
	1	鎌田小	生活科 学習センター見学 10月27日 2年4クラス	北信学習センター	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	短時間で、利用団体見学や図書室も含めて、効率よくできた	
			地域のアトリ工展見学学習	白澤菊夫	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
	2	瀬上小	生活科 学習センター見学 11月9日 2年14名	北信学習センター	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	短時間で、利用団体見学や図書室も含めて、効率よくできた	
			生活科 学習センター見学 9月8日 2年1クラス	北信学習センター	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
	3	余目小	地域防災訓練 11月5日	余目町会連合会 消防団 支所	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
			4	矢野目小	リンゴ栽培・稲作・矢野目だるま	渡辺浩子 二階堂一宏 阿部安一	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	5	北信中	北信文化まつり模擬店の手伝い10月15日 16日	北信学習センター	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	2日間とてもよく手伝ってくれた。	
			風船で遊ぼう 6月15日 中3,3名と中1,1名が2歳児やその母親と一緒に活動した	きつぱーく	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学校では見られない笑顔だったようだ	
			栄養相談 10月19日 4名の中学生と、1歳児やその母親と一緒に活動した。	きつぱーく せのうえ子育て	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	お互い良い表情だった	
6	小学校4校・中学校1校 合同	合同活動(あいさつ運動・クリーン活動)	学院大・看護学校 区内各施設等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
6	小学校4校・中学校1校 合同	合同活動(あいさつ運動・クリーン活動)	町内会連合会 PTA 教職員	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
事業評価	No.	評価の観点		十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			<input type="radio"/>		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。			<input type="radio"/>		
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。			<input type="radio"/>		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。			<input type="radio"/>		
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。			<input type="radio"/>		
6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。			<input type="radio"/>			
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○ 北信中のふれあい学習室の生徒たちや家庭部の生徒たちと、利用団体(きつぱーく)、せのうえ子育て支援センターと連携して今年も活動することができて良かった。今後も継続していければと考えている。</p> <p>○ 学校支援活動は、熱心なボランティアの方々との連携して上手く機能した。</p> <p>○ 学習センター内の展示コーナーを利用して、計画的に小・中学生の作品展示を開催した。</p> <p>● 本事業の学校における共通理解は、中々難しい状況である。</p> <p>● コロナ禍の状況でも、できそうなことをいろいろアイデアを出し合いながら、失敗を恐れずに事業を進めていくことが大きな課題である。</p>						

【様式4】		<令和4年度 地域学校協働本部事業>						
		センター実施報告書(兼)事業評価			吉井田学習センター			
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	吉井田小学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	吉井田小	11月14日(月)・11月16日(水) 第5学年 85名 家庭科(ミシン操作)	渡邊のみ 渡邊 陽子 野口とよ子 桃井 綾子 阿部 洋子	どの子もボランティアの方々の説明を聞きながら、熱心に取り組んでいた。ボランティアの方々もミシンを通して子供たちとふれ合うことに喜びを感じ、参加していた。			
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
地域学校協働活動	1	吉井田小 他	防災キャンプ(8/5~8/6 小3~小6 24名) 防災活動の実施(非常食の試食、災害に関する話、バケツリレー体験、消火体験、空き缶でサバイバル飯作り等)	地区青少年健全育成推進会、町内会、民生委員、ヘルスメイト吉井田消防団、防災士、吉井田支所	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学習センターを避難所見立て、地域の方々の協力を得て、体験を通して防災に関する知識や技術を学ぶことができた。		
	2	吉井田小 岳陽中 西高 福大附属特別 支援学校	吉井田地区文化祭作品展示(10/29~10/30) 吉井田小【絵画・立体】19点 岳陽中【工芸・絵画】28点 西高校【黒板アート】2点 福大附属特別支援学校(小・中・高等部) 34点 吉井田学童クラブ		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	地域住民が児童・生徒・園児の活動の様子や学習の成果を知るよい機会となった。		
	3	吉井田小	学習センター見学(11月6日 2年生4クラス 101名) 図書室を含む館内見学及び学習センターの説明・少年教室の活動の紹介・図書の貸出	学習センター職員・図書室職員	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	身近な公共施設について理解することができた。		
			体験授業 方木田稲荷太鼓(1月27日 4年生3クラス69名) 方木田稲荷太鼓の実演と説明 児童による太鼓の演奏	方木田稲荷太鼓の本間さん、黒沢さん、成瀬さん	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	どの子も生き生きと活動していた。地域の伝統文化継承ということで次年度も実施することになった。		
			土湯こけし絵付け体験教室 3年生 69名 荒川の水質調べ 5年生 88名		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	学校独自の授業		
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。					✓	
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネーターができたか。				✓		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネーターができたか。				✓		
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整・要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
	6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○成果	○事業を実施する際には担当者同士の打合せをその都度、実施してきた。そのことが事業の円滑な運営につながった。							
●課題	○ミシンボランティアに参加した方々に感想を伺うと、「毎回ミシンを通して子供たちとふれあうことに喜びを感じている」という感想が返ってきた。							
※改善策等	○方木田稲荷太鼓の方々の実演と説明、児童が実際に太鼓を叩きながらの交流は、児童の地域伝統行事という点で、大変有意義な活動であった。							
	●学習ボランティアの高齢化が進み、学校支援活動が難しくなっている。							
	※来年度も定期的に打合せを実施し、情報を共有しながら協働活動に携わっていきたい。							

【様式4】		<令和 4 年度 地域学校協働本部事業>					
センター実施報告書(兼)事業評価			西学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。						
対象校	荒井小学校、佐倉小学校、佐原小学校、西信中学校						
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等		
学校支援活動	1	荒井小学校	5月6日(金)第5学年15名、教員3名。今年度田植えを行うために鍬やスコップを使っての活動の支援。	加藤勇治 佐藤久美子	田植えをする前の準備として田おこしを初めて行うことができました。		
			5月25日(水)第5学年23名、教員3名。児童の田植え活動の支援。	加藤勇治 佐藤久美子	初めて田植えを行い、農家の方の大変さを知ることができました。		
			10月20日(木)第5学年23名、教員3名。初めての稲刈り体験及び稲を自然乾燥させる作業の支援。	加藤勇治	鎌の扱い方を学び、稲を刈り束ねることや干し方を学びました。		
2	佐原小学校	9月2日(金)第5・6学年13名、教員3名。多目的ホールにおいて茶の湯体験教室を支援	西学習センター 茶の湯クラブ 今泉宗智	茶の湯の作法から歴史、飲み方など初めて体験することができました。			
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等	
地域学校協働活動	1	西信中学校	地域づくり貢献活動(田植え、稲刈り)荒川ウォーキング参加者に荒井づくり協議会の方に同行してのボランティア活動、西地区敬老会、文化祭参加、歴史ふるさと発見事業 銀座菜の花交流会	西支所、あらかわふるさと川ウォーキング実行委員会 他	有(無)	地域の史跡や自然について理解を深めることができました。	
	2	佐倉小学校	6月24日(金)6学年17名担任1名。義民太郎衛門霊廟、お墓などの見学にあたり、見学地の案内、説明支援。	西郷土史愛好会 佐藤正之 小野節夫	有(無)	地域の歴史について詳しく学習を進めました。	
	3	荒井小学校	10月5日(水)第2学年23名、教員2名。西学習センター館内見学支援。	西学習センター	有(無)	図書館の本の貸し出しや利用団体の活動の様子など見学してもらいました。	
事業評価	No.	評価の観点		十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			○		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。			○		
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。			○		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。			○		
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。			○		
	6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。			○		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○ 荒井小学校第5学年による田植え、稲刈り、脱穀の体験活動をボランティアの方々に支援していただき、実践することができました。子どもたちは、田植えから脱穀まで経験することで、農家の方々の苦労や工夫を学び、その成果を紙芝居などにより収穫祭で発表することもできました。</p> <p>○ 佐原小学校第5、6年生では、9月に社会科歴史学習の中で茶の湯体験を茶の湯クラブの方々の支援により実施することができました。子どもたちにとっては、初めての茶の湯体験ということもあり、茶の湯の歴史や作法について真剣に学び、実際にお茶をいただいたり、お茶を立てることも経験することができ、室町文化と現在のつながりについて学習することができました。</p> <p>○ 荒井小学校第2学年が、10月に西学習センター館内見学をしました。図書館では、図書を借りる体験や自筆術などを見学することや質問コーナーを設けることで、学習センターが今までより身近に感じられたようでした。これからの西学習センターを利用するきっかけになればと思います。</p> <p>● 西信中学校からの要請が無かったので来年度に備え期末面談の要望を受けて準備を進めていきたいと思っています。</p>						

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞						
センター実施報告書(兼)事業評価			信陵学習センター					
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	笹谷小学校、大笹生小学校、信陵中学校							
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
	1	大笹生小	4月27日 全校児童の徒歩遠足時のレクリエーション場所(十六沼運動園)確保並びに当日の支援	館長並びに生涯学習指導員	恒例の学校行事の支援にあたることができた。			
			9月28日 6年生(13名)へ 大笹生の歴史(塩竈神社)についての講話	山田達男	事前に把握した児童の疑問等をもとに講話を行い、要望に応えることができた。			
			11月7日 6年生(13名)へ ミシンのナップザックやトートバッグ作りの補助	阿部博子他3名	それぞれの児童の願いに合わせた作品作りができるよう丁寧に指導できた。			
			12月5日 5年生(11名)へ ミシンの操作の仕方、直線縫いの補助	阿部博子他4名	ミシンの基本的な操作技能を高め、作品を完成させることができた。			
2月8日 6年生(14名)へ 大笹生の歴史(大笹生城)についての講話			吾妻良博	豊富な資料をもとに講話を行い、大笹生城について理解を深めることができた。				
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネイト	成果・課題等		
	1	笹谷小	9月7日～9日 2年生3クラス 生活科の学習において信陵学習センターを見学した。	信陵学習センター	有)無	館長と生涯学習指導員が中心となり、児童に学習センターの仕事内容を説明した。		
	2	笹谷小 信陵中	10月1日～2日に実施した信陵文化祭において合唱部や合奏部、吹奏楽部が演奏を行った。	信陵学習センター	有)無	児童生徒の保護者をはじめ、多くの地域の方に参観していただくことができた。		
3	大笹生小	11月25日の小学校主催「ふれあい体験活動」の1年生と3年生に対して、折り紙や切り絵の指導を行った。	信陵学習センター	有)無	児童に折り紙や切り絵の楽しさを体験させることができた。			
地域学校協働本部(学習センター)事業評価								
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			✓			
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。					✓	
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネイトができたか。				✓		
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネイトができたか。				✓		
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○大笹生小では、全校児童の遠足の支援やふれあい体験活動の支援、5年生と6年生の家庭科のミシン学習や6年生が地域の歴史を学習する授業でのボランティア活用など、学校の要望に添って支援を行うことができた。</p> <p>○昨年度は中止となった信陵文化祭を実施した。笹谷小の合奏部と信陵中の合唱部・吹奏楽部の参加によって文化祭が大いに盛り上がった。</p> <p>●笹谷小では、2年生の学習センター見学の他は授業支援の要望が挙がらなかった。信陵中からも学習支援や地域学校協働活動の要望が挙がらなかった。学習センターで把握しているボランティアについてPR不足で、ボランティアを有効に活用することができなかった。</p> <p>※学習センターで把握しているボランティアの情報を各学校に提供し、授業をはじめ先生方の教材研究などの場で活用してもらうよう呼びかける。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

【様式4】		<令和 4年度 地域学校協働本部事業>						
センター実施報告書(兼)事業評価				飯坂 学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	飯坂小、湯野小、平野小、中野小、大鳥中、平野中、西根中							
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
	1	飯坂小	「つるし雛かざり」作り 9月21日・3年生39名につるし雛かざり作りの指導。	飯坂婦人会 村島勲子 他7名	2月17日～3月5日まで 旧堀切邸で展示披露。			
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
	1	中野小	「ちいきみんなのつどい」 6月17日・全校生徒12名に太鼓やお囃子、盆踊りの指導。	なかのPTCA 会員	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	地区の伝統に触れる良い 機会となった。		
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
	2	大鳥中	「福祉講演会」 7月5日・3年生40名に高齢者理解と認知症高齢者との関わり方についての講演。 「太鼓・剣舞指導」 9月～10月・特設太鼓部13名、特設剣舞部13名。 文化祭や祭礼での発表のための指導。	飯坂北地域包括支援センター 太鼓保存会・ 剣舞講師	<input checked="" type="radio"/> 有・無	本地域の課題である高齢者福祉について理解することができた。 練習の成果を文化祭や地域の祭礼で発表することができた。		
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネーター	成果・課題等		
	3	西根中	「職業人に学ぶ会」 7月12日・2年生48名に地域の講師から職業に関する講話。	学校法人恵泉学園 飯坂恵泉幼稚園 他4名	<input checked="" type="radio"/> 有・無	職業についての講話を聞き、仕事に対する心構えややりがいについて考える機会となった。		
地域学校協働本部(学習センター)事業評価								
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			✓			
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。				✓		
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネーターができたか。					✓	
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネーターができたか。				✓		
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。			✓			
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				✓		
○ 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主旨の理解をしていただき、昨年度より多くの学校との連携が図れた。 ○ 学校と協力して活動することにより、ボランティアの人材発掘にもつながった。 ○ 総合文化祭や地区展覧会で幼・小・中学校の作品展示を行ったことにより、地域の方に生徒作品を見ていただき、地域との交流も図れた。 							
● 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 例年、学校独自で依頼しているボランティアの方がいるので、学習センターを通して依頼する機会がない。 ● 「ボランティアの依頼をしたいが手続きや日程調整などがネックとなり計画できなかった」との反省があった。 							
※ 改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ※ 学校としては、即答を要する時もあるので、そのあたりが躊躇する原因にもなっているのではないだろうか。 ※ 今年度は、年度末の期末面談を対面で行うことができたので、来年度の要望について数多く聞くことができた。 ※ やはり、気軽に連絡をとることができる雰囲気を作っていくことも大切なのではないかと実感した。 							

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞						
センター実施報告書(兼)事業評価				松川学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	松川小学校 水原小学校 金谷川小学校 下川崎小学校 松陵中学校							
学校支援活動	1	松川小	7/11 第3学年65名 総合「松川のすてきをさがそう～あじさい小路について調べよう～」 ○講話(齋藤ミチ子・佐藤清子・和田真弓)(全体)	松川と花案 内人3名	いろいろな種類のあじさいの実物や豊富な資料を提示し役割分担も工夫され子どもは探究意欲にしっかりと応えた。祭りの立上げの中心となった方や現在の運営にかかわる方の講話。動画や写真を交え子どもの関心を高めた。			
			9/13 第3学年65名 総合「松川のすてきを探そう～ちようちん祭りについて調べよう～」 ○講話(松川提灯祭り八町連合代表・セブイレブ松川駅前店主)(2クラスチェンジ)	安田敬希 阿部実				
			9/7 8 14 15 第6学年60名 家庭科「生活を豊かにソーイング～目的にあったふくろを作ろう～」 ○ミシン操作・作品制作支援(岩瀬紀子・丹治絹子・渡邊金子・菅野久子・和田真弓)	石手芸芸 クラブ5名				
			1/25 第1学年75名 生活科「むかしあそびをしよう」 ○昔遊び体験(渡部八重子・加藤喜芳・斎藤清市・斎藤キヌ子・丹治洋子・和田真弓・渡辺靖子・植木しょう子)1/12悪天候のため延期	まつかわ民話の会8名				
	2	水原小	3/7 第6学年3名 学活「二次性徴と命の誕生」 「思春期における心の変化(性の不安や悩み)」 ○ゲストティーチャー・講話・実技	市保健師 田川菜摘	今年度の要望を見越した昨年度末の依頼に応えてくださった方々。笑顔を決りやすさ丁度よい体験。最後は好きな遊びのコーナーを体験。最後は好きな遊びのコーナーへ笑顔いっぱい。90分			
			6/16 9/15 11/18 12/22 1/19 2/16 全学年11名 市放課後子ども教室事業「みずはらっ子ふれあい教室」 ○科学遊び・スーパーボールロケット・スライム・風車・プラバン・あぶらだし・静電気・万華鏡	担当	二次性徴と命の誕生に加えて中学への進級に備えて「思春期～」を実施。学校と講師が事前に綿密に打ち合せを行った。子どもたちの真剣な表情が印象的。準備するものも楽しく、水原小最後の年にあたり参加できたことに感謝している。			
	3	下川崎小	9/30 10/6 第5学年16名 家庭科「ミシンでソーイング」 ○ミシン操作・作品制作支援	田村順子	ミシン学習の導入にあたり、基本的なミシンの扱いを丁寧に支援いただきミシンのトラブルにも適切に対応いただいた。			
			11/2 第5学年16名 総合「地域体験学習～つるしびなをつくらう～」 ○つるしびな制作体験・「つるし内裏雛」制作指導・つるしびなの由来講話	藤原光江 佐藤せつ 加納悦子 佐藤初子	一人一人目を配り丁寧に指導いただいた。制作体験を通して講師との交流が深められた。後日お礼の手紙を届けた。			
			2/1 第4学年6名 音楽科「日本の音楽に親しみましょう」 ○和楽器指導・箏演奏鑑賞・箏演奏体験	福地嘉子	今年度新たにお引き受けいただいた。事の名前や演奏法、伝来の歴史など、わかりやすく指導いただくとともに、学年のねらいに応じて、楽曲演奏の披露や児童の演奏体験などに対応していただいた。特に6年生については中学校での学習を見通して、小学校で体験すべき和楽器学習のポイントを押さえて指導いただいた。児童用等は松陵中から8面借りました。			
			2/6 第5学年16名 音楽科「日本の音楽に親しみましょう」 ○和楽器指導・箏演奏鑑賞・箏演奏体験	福地嘉子	前日までのみずき準備「だんご下準備を各め丸ごとお世話になった。昨年度に続き2回目。出勤講座への移行も検討。			
	4	まつかわ幼	2/6 第6学年11名 音楽科「越天楽 今様」 ○和楽器指導・箏演奏鑑賞・箏演奏体験	福地嘉子				
			1/17 年長組13名年少組11名 年中行事「だんごさし」 ○準備と指導「だんごさし」体験・由來(渡部八重子・加藤喜芳・斎藤清市・高橋米子・斎藤キヌ子・丹治洋子・和田真弓・渡辺靖子)	まつかわ民話の会8名				
	地域学校協働活動	1	松川小	9/16 第4学年70名 総合「松川の自然～水原川の持ちようを調べよう～」 ○フィールドワーク・バックテストによる水質調査・生き物調べ	環境創造センター 環境アドバイザー 堀田順	有	フィールドワークを通じて水質と植生等の生き物の関係を考察し地域の自然への探究意欲をもたせることができた。	
				6/29 生徒会本部・代議員27名 特活「地域交流活動～松川町異世代サミット～」 ○異世代による交流・松川カルタによる交流・9班編成テーマ別討議・3分科会ごとの発表・全体会での振り返り	松川町に参るゲスト67名 学セ登録団体・松川町観光協会・商工会・町内会・学校から地区内幼保小中・介護施設、中学生は工夫を凝らして運営にあたり松川町の各世代・分野の方との交流が図られた。	有	広範囲なゲスト依頼(学セを通じて登録団体・支所から観光協会・商工会・町内会、学校から地区内幼保小中・介護施設)、中学生は工夫を凝らして運営にあたり松川町の各世代・分野の方との交流が図られた。	
		2	松陵中	7/12 第1学年89名 総合「働く人々に話を聞く会」 ○第1部・村岡クリニック院長講話(全)ゲスト4組(選択)・第2部ゲスト5組(選択)	村岡クリニック・斎藤建築 金水品バウムラ市樹来里 学セ司書・JA松川エスポ ワール県農工信用組合ロ ングライフさくら幼	有	中学校からゲスト依頼。学セを通して図書室司書紹介。中学生は自分の興味・関心に従って各ゲストを選び意欲的に参加した。	
	地域学校協働本部(学習センター)事業評価							
No.	項目	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
Q1	学校との連携	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				✓		
Q2	事業の周知	地域に本事業の趣旨が周知されたか。					✓	
Q3	地域人材の活用	学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。			✓			
Q4	地域と学校の連携協働	学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。				✓		
Q5	地域本部の業務	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。				✓		
Q6	統括本部の業務	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。			✓			
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○学校長との期首面談時に、各校の実情に合わせてできる部分から取り組んでいくこと・学習センターでも協力していくこと等を確認した。年度始めに年間を見通した要望について知らせていただくとともに、その時々要望にも確実に対応できるようにした。今年度も1校を除いて各校から要望があった。昨年度はコロナ状況による中止があったが、今年度は延期はあったものの要望された授業・活動についてはすべて実施することができた。</p> <p>○学校からの要望に応えるために新たに講師・ゲストを探すこともあったが、様々な方にお世話になって引き受けていただける方を見つけることができた。今後も日頃から関係を大切に、広く情報を集める必要がある。</p> <p>●学校支援活動・地域学校協働活動について、学習センターを通したものの以外については各校の実践状況をほとんどとらえていない。学習センターを通す・通さないにかかわらず、各校の実践状況を把握することは、地域のつながりや協働の動きを知り、地域の全体像を知る上で必要なのではないかと考える。</p> <p>※学校のやりやすい取り組み方で、ニーズに応じたコーディネートを進めながら、学校での全体的な実践助教について学習センターが把握できるような方法を工夫していく。</p> <p>◇各校から知らせていただいた実践状況は、別紙「学習センターのコーディネートを通さない各校の実践状況」参照。</p>							
福島市教育委員会生涯学習課								

<松川学習センター補助資料>

学習センターのコーディネートを通さない各校の実施状況

	学年・人数	期日・支援内容	連携団体・ボランティア等
松川小	4年70名	総合「松川の自然」 ※フィールドワーク以外 6/14 摺上川ダム・荒川クリーンセンター見学 6/23 水道出前授業 10/31 水原川のごみ拾い 12/29 荒川資料室見学 12/21 水原川を守るポスター掲示	摺上川ダム 荒川クリーンセンター 市水道局 ボランティア4名 荒川資料室 松川学セ等12か所
	5年60名	5/17 田植え 10/6 稲刈り 10/2 脱穀 12/22 感謝の会	H氏他
		11/24 子ども食堂について 12/21 お米贈呈式	ビーンズふくしま E氏
		11/25 朝市について 12/4 朝市に参加 12/19 市へ寄付	S氏 福島市長
		9/9 22 26 11/7 松川で活躍されている方にインタビュー	右輪台のしだれ桜を守る会他
水原小	全学年12名	5/2「クマガイソウの里」についての講話	水原の自然を守る会事務局
	6年3名	4/28「クマガイソウの里」見学学習	水原の自然を守る会
		5/13 19「クマガイソウの里」ガイド活動	水原の自然を守る会
金谷川小	全学年	6/30 全校おはなし会 上・下学年各1回	嶋原氏他4名
	1・2年23名	読み聞かせ年間8回	エプロンおばさん各1～2名
	2年11名	10/6 生活科「地域たんけん」	あいあい保育園 ダイちゃんマーケット
	3年12名	6/28 8/25 社会科「地域を知ろう」浅川の黒沼神社	黒沼神社宮司
	4年10名	6/10 総合「リンゴ栽培」受粉 11/ 収穫	尾形氏
		6/16 12/9 ジャム作り(JA支援事業)	JA学校支援事業2名
	5年10名	5/25「米作り」田植え・バケツ稲 9/15 生育	JA学校支援事業各回2名
		11/29 米粉だんご	
6年14名	9/16 社会科「今に伝わる室町文化」華道体験	3名	
	7/7 金谷川の歴史①・金谷川に伝わる和算	高橋愛子氏他2名	
	9/27 金谷川の歴史②	高橋愛子氏	
下川崎小	1～3年34名	5/13 農業体験・サツマイモ栽培	JA学校支援事業1名
	1・2年22名	11/2 木工クラフト教室	森の案内人 蓮沼昇氏
		11/4 防災出前授業	福島県土木部河川計画課
	4年6名	6/29 水のゆくえ出前授業	福島県浄化槽協会
		8/30 ごみ減量出前授業	福島市ごみ減量推進課
		1/17 こんにゃく作り	JA学校支援事業4名
	5年16名	12/16 豆腐作り	JA学校支援事業4名
	6年11名	4/27 租税教室	福島税務署
		5/2 選挙体験教室	福島市選挙管理委員会
		9/6 生け花教室	JA学校支援事業3名
9/29 認知症サポーター養成講座		JA学校支援事業3名	
松陵中	全学年 297名 ※内27名は異世代サミットに参加	6/29 地域交流活動 ※異世代サミット以外 ・福大「災害ボランティア」講話 ・土合館公演と周辺道路のごみ拾い活動 ・地域のゲートボール愛好者との交流 ・石蔵の贈呈と交流 ・「松川町の朝市」ポスター作り ・松川町の商店へのインタビュー活動	福島大学災害ボランティアセンター 市ゲートボール協会南支部石川氏 老人クラブ女性部 f's ポケット・松川町観光協会 パティスリールシエリア・金水晶・ エスポワール

【様式4】		<令和4年度 地域学校協働本部事業>						
センター実施報告書(兼)事業評価			信夫 学習センター					
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	大森小学校 鳥川小学校 平田小学校 平石小学校 信夫中学校							
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
学校支援活動	1	大森小	10月 5年生 113名 家庭科 ミシン実習の補助	しのぶパッチワーク愛好会	児童のエプロン製作で、ミシン操作の支援を行うことができた。ボランティアの方に、活動内容も報告していただいた。			
			1/30 3年生 104名 社会科 「昔の道具と生活」	臥牛会	地域の高齢者と触れ合い、道具を操作しながら学習を深めることができた。			
	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等		
地域学校協働活動	1	大森小	11/11 11/14 学習センター訪問2年生112名 学習センター機能や利用方法の説明	信夫学習センター	有(無)	図書室や各部屋の説明を聞いて、学習センターの働きについて理解をすることができた。		
			2/22 総合矢吹邸訪問 3年生 58名 2/24 総合観音寺訪問 3年生 58名	矢吹弘子 観音寺	有(無)	6学年時の「茶道・歴史教室」につながる内容となっている。		
	2	鳥川小	3/3 茶道・お琴・歴史教室 6年生 52名 茶道の体験、鳥川地区の史跡歴史の説明	矢吹弘子 半澤文江	有(無)	11月に予定されていたが中止となり、一部内容を変更して実施することができた。		
			10/27 学習センター訪問 2年生 6名 学習センター機能や利用方法の説明	信夫学習センター	有(無)	図書室や各部屋の説明を聞いて、学習センターの働きについて理解をすることができた。		
	3	平田小	11/21 茶道・お琴体験教室 5・6年生 13名 茶道お点前体験、お琴演奏体験	矢吹弘子 半澤文江 瓶子真弓	有(無)	矢吹邸で、児童一人一人が日本の伝統文化を体験することができた。		
			10/26 地域の歴史・平石FW 5・6年生5名 平石地区東側の史跡巡りと説明	丹治弘治	有(無)	講師の資料作成支援を行い、スムーズに進めることができた。		
	4	平石小	11/21 茶道・お琴体験教室 5・6年生 5名 茶道お点前体験、お琴演奏体験	矢吹弘子 半澤文江 瓶子真弓	有(無)	矢吹邸で、児童一人一人が日本の伝統文化を体験することができた。		
			11/5 信夫学習センター文化祭 吹奏楽部演奏	文化祭実行委員会	有(無)	信夫地区文化祭の開会式ファンファーレと、アトラクションで楽曲演奏を行い、地域と交流できた。		
	事業評価	No.	評価の観点		十分	概ね	あまり	まったく
		1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。			✓		
2		【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。			✓			
3		【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。		✓				
4		【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。		✓				
5		【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。			✓			
6		【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。			✓			
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○毎年行っている小学校での支援では、学校とボランティアのコーディネイトをスムーズに行うことができた。今年度新たに平田小と平石小の合同学習として茶道・お琴教室を支援したが、問題なく進めることができた。</p> <p>○支援ボランティアとの打ち合わせや学校との連絡を確実にし、学校支援内容についてお互いに確認しながら進めることができた。</p> <p>○学校支援ボランティアの方々が協力的で、学校側にもいろいろ配慮いただきお互いに気持ちよく活動できた。</p> <p>●学習センターの利用者や利用団体が高齢化し、ボランティアとしての活動が難しくなると感じる。</p> <p>●中学校の学習内容は専門的で、学校の授業に関わる専門的な要請に応えることは難しい。中学生が地域に出ていく活動を支援するほうに重きを置いたほうがよいと思う。</p> <p>●小学校はもともと地域との関わりが強く、学習センターを通さず地域とつながっていることも多い。来年度は学習センターもそこに関わっていく支援ができるよう考えていく。また、学校もそのように考えている面も見られるため、来年度も情報を共有しながら協働活動に携わっていきたい。</p>							

【様式4】		<令和4年度 地域学校協働本部事業>						
		センター実施報告書(兼)事業評価			吾妻学習センター			
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。							
対象校	野田小学校 庭坂小学校 庭塚小学校 水保小学校 野田中学校 吾妻中学校							
学校支援活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	ボランティア氏名	成果・課題等			
	1	庭坂小	10/12、26 第6学年 47名 ミシンの使い方の個人指導	阿部ミサ子 南部 悦子	担任が目が届かない児童に対し個別指導を行い、作品を完成できた。			
	2	庭塚小	8/29 第6学年 15名 ミシンの使い方の個別指導	阿部ミサ子 南部 悦子	個人対応ができ、児童のミシン操作が上達した。			
	3	水保小	10/13、21 第5学年 9名 ミシンの使い方の個別指導	阿部ミサ子 南部 悦子	担任が目が届かない児童に対し、懇切丁寧に指導をいただいた。			
	【学校独自】水保プロジェクト 12/14 第1・2学年20名 昔遊びの指導		講師 保護者等	ボランティアの丁寧な指導により、楽しく活動できた。				
			【学校独自】 1/24 第5・6学年22名 スキー教室の指導	松崎欽榮	ボランティアの個別指導により、けが無く楽しく活動できた。			
地域学校協働活動	NO	学校名	実施内容(期日・学年・人数・支援内容等)	連携・協働団体名	地域本部(学習センター)のコーディネート	成果・課題等		
	1	野田小	10月19日、20日に実施した2年生(118名)の「みんなであつかうまちのしせつ」見学において吾妻学習センター図書室の見学・本の貸し出し体験をした。	吾妻学習センター	有(無)	図書カードを作り、実際に本を借りる体験を通して、公共施設の利用についての学習につなげることができた。		
	2	庭坂小	ふるさと学習 全学年 生活科・総合的な学習の時間) 1年「まちたんけん(季節を感じよう、梅取り)」 50名 2年「まちたんけん(お店屋さんをたずねよう)」 44名 3年「梨栽培」 通年 43名 4年「自然環境学習(吾妻山登山等)」 7月14日 46名 5年「米づくり」 通年 61名 6年「地域の歴史学習」 通年 47名	庭坂ふるさと学習ボランティア	有(無)	子どもたちが、地域の自然、産業、地理、歴史について地域の方々やJA等の協力を得て、交流を通して地域を学ぶことができた。		
	3	吾妻中	5月～10月 総合 1年「稲栽培」 3年「梨栽培」	JA等	有(無)	生徒たちが、JAや地域の方々の協力を得て、熱心に取り組むことができた。		
4	野田中	生徒会活動(SDGs 有価物資源回収)	吾妻支所	有(無)				
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく
	1	【学校との連携】 本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。				レ		
	2	【事業の周知】 地域に本事業の趣旨が周知されたか。					レ	
	3	【地域人材の活用】 学校のニーズに応じて学校支援活動のコーディネートができたか。				レ		
	4	【地域と学校の連携協働】 学校や地域団体のニーズに応じて学校協働活動のコーディネートができたか。					レ	
	5	【地域本部の業務】 地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。					レ	
6	【統括本部の業務】 統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。				レ			
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○今年度はコロナ禍の状況の中ではあったが、地域人材を学校教育に活用した小学校家庭科のミシンの指導やスキー教室の指導と支援事業の要請にこたえることができた。各学校では、コロナ感染予防対策を十分に講じながら、それぞれの活動で成果を上げることができた。</p> <p>○6月に実施している期首面談は、前年度の反省を踏まえ、支援事業の趣旨を丁寧に説明する機会としては大変重要であった。2月振り返りの面談は、コロナ感染が増加傾向にあることやインフルエンザが流行し始めていることから、書面による面談を取り入れるなど各学校の状況に応じて実施したが、貴重な意見や要望を寄せていただくことができた。</p> <p>●今年度もコロナ禍の影響で、コーディネーターとして各学校と共同本部事業の連携を図ることが難しかった。</p> <p>※今後は、コロナ禍においても推進できる本事業のあり方を考えていく必要がある。</p>							

【様式4】		＜令和4年度 地域学校協働本部事業＞							
		センター実施報告書(兼)事業評価			飯野学習センター				
事業の目的	学校を核としてより多くの地域住民、団体等が参画する緩やかなネットワークを構築し、「学校支援」から「地域と学校の連携・協働」を目指した地域学校協働活動を推進することにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。								
対象校	・福島市立飯野小学校 ・福島市立飯野中学校								
	No.	学校名	内容(学年・教科等・主な支援内容)	学校支援ボランティア氏名	特記事項				
学校支援活動	1	飯野小	6学年(27名)社会科「今に伝わる室町文化」 ・水墨画体験を通して室町文化について理解を深める。(1時間)	菅野 修司 松浦 清	福島県墨画会				
			クラブ活動4・5・6年生(14名) 将棋教室(11月10日・11月17日)	高野 和夫 高野 吉晴 神村 則雄	地元の愛好家				
			クラブ活動4・5・6年生(14名) 将棋教室(11月10日・11月17日)	高野 和夫 高野 吉晴 神村 則雄	地元の愛好家				
			6学年(31名)社会科「今に伝わる室町文化」 ・水墨画体験を通して室町文化について理解を深める。(1時間)	菅野 修司 松浦 清	福島県墨画会				
			6学年(27名)社会科「戦争体験を聞く」 ・当時の学校生活や家庭生活について直接話を聞き、厳しい国民生活について理解を深める。	古関善一郎	地元戦争体験者				
			3学年(25名)算数科「そろばん教室」 ・そろばんの基本的な指使いから、5の分解や10の分解について理解する。	神村 久子	元そろばん塾経営				
	2	飯野中	※学校独自の取組 つるし雛作成(文芸部)	地元つるし雛 愛好会					
地域学校協働活動	1	飯野中	地域奉仕作業(学習センター敷地内清掃活動)	飯野学習センター					
事業評価	No.	評価の観点			十分	概ね	あまり	まったく	評価 できず
	1	本事業の目的が学習センターと学校間で共通理解が図られたか。【学校との連携】				✓			
	2	地域に本事業の趣旨が周知されたか。【事業の周知】				✓			
	3	学校のニーズに応じて地域人材をコーディネートできたか。【地域人材の活用】				✓			
	4	地域人材の活用が教育活動(授業)にとって有効であったか。【事業の有効性】				✓			
	5	地域本部(学習センター)としての業務(連絡・調整、要望の把握、登録等)がスムーズに行われたか。【地域本部の業務】				✓			
	6	統括本部(生涯学習課)の業務内容(企画・運営・助言等)は適切であったか。【統括本部の業務】			✓				
○成果 ●課題 ※改善策等	<p>○本事業の実施にあたり、学習センターと学校間で共通理解が図られ、今年度、要望のあったすべての事業が予定通りに開催でき、成果を収めることができた。</p> <p>○昨年度の反省をもとに、担当教員の要望を確認し、担当ボランティアとの事前打合わせをすることで、より有意義な活動にすることができた。</p> <p>●小学校と中学校には12月の段階で次年度の要望等をアンケート形式で行っているが、その段階で中学校からは具体的な要望がなく、その後いくつかの提案をしたが実現には至らなかった。</p> <p>※昨年度から飯野地区は、小中一貫、コミュニティスクールとして小・中学校と家庭、地域が今まで以上に連携することが求められている。定期的に学校運営協議会が開催されており、学習センター館長も出席しているので、機会を捉えて話題にしたい。今年度1月、学習センターが関わっていないボランティア活用状況を調査したところ、上記の取り組み以外に小学校で9名、中学校で3名のボランティアの方々が活動に協力してくださっていることが分かった。現状を把握し、今後のコーディネートに活かしたい。</p>								
福島市教育委員会生涯学習課									